

秋の不思議

秋季は過ごしやすく、色鮮やかで最高の季節です。動物の世界でも活発になる種類が見られるため、楽しみが増える季節です。



(写真)シカの角研ぎの痕。植物を捕食するだけではなく、このような被害も拡大しています。

秋は、ニホンジカの繁殖に伴い、山の中でシカの鳴き声がします。「フィー」という感じで、あきる野の奥山に暮らす方は耳にしたことがあるかと思います。今年は、青木平や上養沢などで例年以上に鳴き声を聞くだけではなく、五日市周辺の丘陵や秋川・草花丘陵まで分布を拡大しているため、食痕や目撃が増えています。個人的には秋らしい生き物で好きですが、増加による森への影響は心配です。



10月中、「カケス」はたくさんのドングリを調達するため、あちこちで「ギヤーギヤー」と鳴きながら、忙しく過ごしています。ドングリは、イノシシなどの哺乳類だけでなく、さまざまな生き物の大切な餌であることが、この時期によく分かります。

渡りをするのは、鳥類ではありません！

アサギマダラという蝶は、全国的に生息する種類ですが、越冬するために渡りをおこない、南下します。冬には、東京平地周辺が分布の北端となるため、山では春～秋にしか見られません。秋になると北日本からたくさんのアサギマダラが南下するため、あきる野の森林や草地などで観察することができます。マダラ蝶の仲間であるため、色や模様がとても美しく目立ちます。どこかで見かけたことはありませんか？



夏の終わりは、ヘビが生まれる時期であるため、9月～10月はたくさんの小型ヘビを見ることができます。秋は涼しい季節なので、おとなしくしていますが、晴れた日には暖かい日差しを求めて活動します。

実は、今年10月7日に、乙津地区で変わった柄のニホンマムシを発見しました。最初は、シマヘビに見えましたが、直ぐにマムシの体形をしていることに気づきました。ニホンマムシは、背中に丸い模様が連続的に並ぶのが通常の様式ですが、今回発見したマムシは縦縞模様でした。

このように、ヘビ類は白化(アルビニズム)したり、黒化(メラニズム)したりと、模様の異変などが見られることがありますので、種類を特定するには体形や鱗(うろこ)の数などの知識も必要となる場合があるので注意が必要です。ヘビは自然の中で大変重要な役割を担っていますが毒ヘビもいますので、皆さん、気軽に触らないようにしてください。



(写真)右はニホンマムシの通常の様式。左は今回発見した縦縞状の柄のタイプ。

[パブロ]



プチ秋



ヤマウルシ



ススキ



ミズナラ



ツクバネ



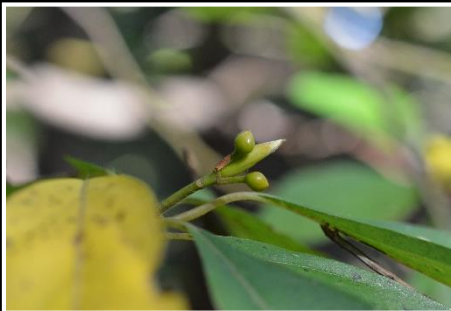
リンドウ



イロハモミジ



ヤブムラサキ



クロモジ



フユイチゴ



キッコウハグマ



ヤマトリカブト

秋の森は、美しい彩りにあふれた季節です。

森で見つけた、空、海老茶、枯、栗、草、竜胆（りんどう）、山吹、紫式部、黄緑、茜、白、江戸紫の色々。

秋の森の楽しみ方は、遠くから赤や黄色に紅葉した森を眺めることも最高ですが、森にたずんでみることもお勧めします。すると様々な“色”が主張してきて、これから来る冬の季節と向き合う森の姿を感じることができのかもしれない。

10月17日健康のつどいへ出張！

森の子コレンジャー5名がコレンジャー活動と自分たちで考えた自然クイズを、短い時間でしたが訪れた方に向けて紹介しました。

森で活動しているだけでは、中々触れ合うことができない市民の方たちに、コレンジャーの活動や自然の紹介をすることを通して交流することができました。

「楽しかった!」「またやりたいな〜」「自然のためになったかな?」みんな、協力ありがとう!!

[加瀬澤]

